

第4号



日本共産党
Japanese Communist Party

安藤たい作 ニュース

雪だるま式高齢者負担増なんとかして！

区民に心寄せる区政に転換を

なんで日本共産党？

「どうして安藤さんは日本共産党なんですか？」私が政治の世界に飛び込む決意を告げた際、元同僚の青年から言われた質問です。その質問に漫画で答えつつ、今もっともホットな政党、日本共産党の魅力を明らかにしていくシリーズです。

(答) 戦前戦後一貫して「国民が主人公」を主張する党



安藤たい作は、理不尽な高齢者負担増に対し、防波堤の役割を果たす区政実現のため頑張ります！

しかし区民にとって有権者にとって、一番身近な行政が「区」です。地方自治体法にも「住民の福祉を増進する」ことが使命として明記されています。区民が困っている時、少なくともその苦しい実態をつかみ、都や国にあげていくこと、意見を述べることにすらしないというのはどうでしょうか。今の区政がどこを向いているのか—そのことを実感する緊急要請行動になりました。

区側からは濱野健助役らが対応。緊急提案の中身は「現在と今後の大増税計画を凍結・中止するよう、区として国に求めて欲しい」ということと、「区として独自に高齢者大増税に対しての軽減措置を講じて欲しい」「自治体として、現在でも存在する負担軽減制度を積極的に区民に周知して欲しい」ということが柱でした。

ところが助役は「国会で議論して決めたことだから、区として意見を述べることはしない」「国の増税分を区として財政負担したら区財政が破綻する」「窓口で説明はしている。新たな通知などはしない」などとして、全て断ってしまいました。

区への申し入れ行動に初参加

7月からの住民税増税、そしてそれに伴う国保料と介護保険料の連動値上げ、いわゆる「雪だるま式負担増」が区民の怒りと呼んでいます。

私、安藤たい作は、去る8月9日、日本共産党品川区議団・地区委員会合同による「高齢者の負担増の中止と区独自の負担軽減策の実施の緊急要望書」を区長に提出する緊急行動に参加させていただきました。